

調査・研修等計画届出書

令和7年8月19日

瀬戸市議会議長 様

議員名 颯田 季央

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和7年8月26日から8月28日まで（2泊3日）	
調査先・研修名	1. F ビレッジ・エスコンフィールド見学 2. 北広島商工会のまちづくり施策の取り組みについて 3. 全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌	
会場名（会場所在地）	1. F ビレッジ・エスコンフィールド（北広島市F ビレッジ1番地） 2. 北広島商工会（北広島市中央5丁目7-2） 3. 札幌文化芸術劇場 hitaru（札幌市中央区北1条西1丁目）	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	8月26日 愛知県では、本年度「IGアリーナ」が開業し、来年度9月には第20回アジア競技大会が開催される。瀬戸市は会場まで約50分の立地を活かし、地域経済や観光振興につなげる取り組みが求められる。 本調査では、F ビレッジ・エスコンフィールドを見学後、北広島商工会にて職員より説明いただき、商工会との連携・経済効果の実態を学び、瀬戸市における地域活性化の方策を検討するための知見を得ることを目的とする。 8月27・28日 全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 今後、人口減少に伴い地方議員のなり手不足が話題となる中で、本市についてもなり手不足問題も出てくると懸念される。この問題について実情を踏まえ、課題解決に向け取り組むよう調査研究する。	
議長名の依頼	要	依頼先（名称）
		北海道北広島商工会
同行者名	柴田利勝、小澤勝、朝井賢次、三木雪実、宮藺伸仁、高島淳黒柳知世	

※行程表を添付してください。

調 査 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 7 年 9 月 2 2 日

瀬戸市議会議長 様

議員名 颯田 季央

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 7 年 8 月 2 6 日から 8 月 2 8 日まで（2 泊 3 日）
調査先・研修名	1. F ビレッジ・エスコンフィールド見学 2. 北広島商工会のまちづくり施策の取り組みについて 3. 全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌
会場名（会場所在地）	1. F ビレッジ・エスコンフィールド（北広島市 F ビレッジ 1 番地） 2. 北広島商工会（北広島市中央 5 丁目 7-2） 3. 札幌文化芸術劇場 hitaru（札幌市中央区北 1 条西 1 丁目）
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	8 月 2 6 日 愛知県では、本年度「IG アリーナ」が開業し、来年度 9 月には第 20 回アジア競技大会が開催される。瀬戸市は会場まで約 50 分の立地を活かし、地域経済や観光振興につなげる取り組みが求められる。 本調査では、F ビレッジ・エスコンフィールドを見学後、北広島商工会にて職員より説明いただき、商工会との連携・経済効果の実態を学び、瀬戸市における地域活性化の方策を検討するための知見を得ることを目的とする。 8 月 2 7 ・ 2 8 日 全国市議会議長会研究フォーラム in 札幌 今後、人口減少に伴い地方議員のなり手不足が話題となる中で、本市についてもなり手不足問題も出てくると懸念される。この問題について実情を踏まえ、課題解決に向け取り組むよう調査研究する。

【北海道北広島市 スポーツを核としたまちづくりの取組に関する調査】

北広島市は人口約 5.6 万人、札幌市と新千歳空港の中間に位置し、交通利便性を有している。2023 年、プロ野球北海道日本ハムファイターズの新本拠地「エスコンフィールド HOKKAIDO」が開業し、周辺エリア「北海道ボールパーク F ビレッジ」とともに、全国的に注目を集めている。

球場は単なるスポーツ観戦施設ではなく、飲食・宿泊・温泉・子育て施設・商業機能を備えた複合的な拠点として整備され、観光・交流人口の増加や地域産業への波及効果が期待されている。開業以来、来訪者数は累計 1,000 万人を超え、経済波及効果は北海道全体で約 1,000 億円と試算されている。

一方で、駅前整備や新駅建設、道路・上下水道等のインフラ投資により、市の財政負担は 350 億円規模に及び、長期的な持続可能性が課題となっている。また、短期滞在型観光に偏る傾向や若年層の人口流出といった地域の構造的課題も存在する。

キーワード

・トップセールス・スピード感・官民連携・スポーツを核としたまちづくり・持続可能性・人口動態改善・労働力確保

【第 20 回全国議長会研究フォーラム 基調講演】

基調講演では、伊吹文明氏（元衆議院議長）より「主権を預かる誇りと責任」というタイトルで、日本の地方自治の歴史とこれからの課題を交えて講演された。日本の地方自治は戦後の地方自治法制定を起点に発展してきたが、その理念の根底には「地域のことは地域で決め、地域が責任を負う」という自治の原点が存在していると強調された。

現代における地方自治体は、人口減少・少子高齢化の進展、地域コミュニティの希薄化、産業構造の変化など、数多くの課題に直面している。その一方で、国からの権限移譲や地方分権改革により、自治体が自らの責任で政策を立案・実行する範囲は広がっている。しかし、財政基盤の弱さや人材不足が制約となり、十分に自主性を発揮できない現状がある。

また、自治体の意思決定に関しては「国や県の方針をそのまま受ける」のではなく、「地域の住民の意思を踏まえ、主体的に決定する」という姿勢も求められていることが指摘された。

キーワード：

・自治の原点（自己決定・自己責任）・戦後地方自治の発展と限界・財政・人材の制約と自主性の発揮・人口減少と地域の持続可能性・国主導から地域主導への転換

【第20回全国議長会研究フォーラム パネルディスカッション・課題協議】

パネルディスカッションでは、全国的に深刻化している「議員のなり手不足」について議論が交わされた。近年地方自治体で無投票当選や定数割れが発生しており、議会の民主的正統性を揺るがす事態が懸念されている。

その背景には、

- ・議員報酬が生活の安定に十分ではなく、職業選択としての魅力が乏しいこと
- ・厚生年金への未加入など将来的な生活保障が不安であること
- ・議員活動が多忙で、仕事や家庭との両立が困難であること
- ・地域社会全体で「議員の役割」に対する理解が十分でないこと

が挙げられた。一方で、改善に向けた動きも紹介された。ICT やオンライン会議の導入により議会活動の柔軟性を高める事例、報酬の見直しを進めて担い手を確保した事例、若年層や女性が参画しやすい制度づくりなどが紹介された。

キーワード：

・無投票・定数割れの増加・報酬や年金制度の課題・DX やオンライン活用による効率化・若者・女性の参画拡大・議員活動の理解促進

調査先（主な質疑・応答内容） ／ 研修（受講後の感想）

【北海道北広島市 スポーツを核としたまちづくりの取組に関する調査】

・Q：自治体の役割はどこまでか？

A：球場建設そのものは民間（ファイターズ球団）が主導し、自治体は周辺インフラ整備・新駅設置などの公共的役割を担っている。

・Q：市長の役割や進め方は？

A：市長自らがトップセールスを展開し、強いリーダーシップの下で計画を短期間で具現化した。特にスピード感を重視し、民間との連携を円滑に進めた点が成功の要因と考えられる。

・Q：今後の展望は？

A：新駅整備、タワーマンション建設、北海道医療大学の誘致などを進め、働き盛り世代や子育て世代（25～45歳）の流入促進を図る。さらに、大学誘致や学生アルバイトの活用による若年層の雇用確保を通じて、中小企業や地域活動の担い手不足の改善を目指している。

【第20回全国議長会研究フォーラム 基調講演】

（受講後の感想）

講演を通じて、「地方自治の原点」に立ち返る重要性を改めて認識した。議員は日常的に予算や条例など具体的な課題に直面しているが、それらの判断の背景には「地域の声を聴き地域のことは地域で決める」という理念があるべきであると感じた。自治体の役割を国からの補完的存在ととらえるのではなく、地域の未来を切り拓く主体として位置づけ、市民と共に議論を深めていく必要性を強く感じた。

【第20回全国議長会研究フォーラム パネルディスカッション・課題協議】

(主な質疑・応答)

Q：議員のなり手不足に具体的にどのような改善策を講じているか？

A：ICT導入やオンライン会議による効率化、議員定数や報酬の引き上げなど進める必要があり検討している。

Q：若者や女性を増やすには？

A：子育て世代の活動支援、柔軟な勤務体系の導入、議員活動の社会的理解を広げる工夫が必要。

(受講後の感想)

議員のなり手不足は全国的に顕著な課題であり、瀬戸市も例外ではないと痛感した。特に「制度改革」と「市民への理解促進」を両輪で進めなければ、持続可能な議会は実現できないと感じた。議員の仕事を市民に可視化し、地域の未来を共に担う存在としての意義を伝える努力が求められる。

・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

【北海道北広島市 スポーツを核としたまちづくりの取組に関する調査】

北広島市の事例は、スポーツ施設を核に据えた都市開発が「観光・経済効果」と「人口動態の改善」「雇用創出」に直結する可能性を示している。特に、25～45歳の世代流入や若者雇用確保を狙った施策は、地域活性化において極めて重要である。

瀬戸市においても、公共施設整備やイベント開催を単発の取組に終わらせず、にぎわい創出・雇用促進・人口動態改善と連動させる発想が求められる。例えば、駅前や公共施設周辺の開発に際し、スポーツ・文化活動を軸に人を呼び込み、地域に経済効果を波及させる手法は大いに参考となる。

また、トップのリーダーシップや迅速な意思決定の重要性を再認識する機会となった。官民連携を前提としたまちづくりのあり方を学び、今後の政策提言や議会活動に活かすとともに、自身の政策形成力の向上につなげていきたい。

【第20回全国議長会研究フォーラム 基調講演】

瀬戸市においても、少子高齢化や人口減少は避けられない課題であり、自治体の持

続可能性が問われている。その中で、議会や議員が「市民と共に意思決定を担う主体」であることを再確認し、政策形成過程に市民参加を積極的に取り入れることが求められる。また、財政的制約が大きい中でも、外部の資源や民間との連携を図りながら地域課題を解決していく姿勢が重要であると感じた。今回の学びを通じて、議員一人ひとりが「自治の理念」を常に意識し、市民に分かりやすく説明する役割があると再確認した。

【第20回全国議長会研究フォーラム パネルディスカッション・課題協議】

瀬戸市においても、将来的に議員定数の維持や担い手確保が困難になる懸念がある。今回の学びを踏まえ、以下の点を検討する必要がある。

- ・ 処遇改善の議論：報酬・年金などをタブー視せず、市民に理解を求めながら制度改善を進める。
- ・ 活動環境の整備：オンライン参加やデジタル活用を広げ、負担を軽減する。
- ・ 人材育成と啓発：若者・女性の参画を支援するとともに、議員活動を分かりやすく発信し、将来の候補者層を広げる。

自己研鑽の面では、議員として「活動の透明性を高め、市民に信頼される存在であること」が改めて重要だと感じた。議員活動を市民に積極的に説明・発信し、瀬戸市議会の魅力を高める努力を継続したい。

行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jorudan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

日付	出発駅	交通手段	片道 ／ 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
7 年 8 月 26 日	中部国際空港	飛行機	片道	新千歳空港	988	km	43,210	円		円
	新千歳空港	JR	片道	北広島	24.8	km	600	円		円
	北広島	JR	片道	札幌	21.8	km	580	円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	リゾートリニティ札幌				0112419269		15,720 円			
備考欄										
※中部国際空港まで自家用車で移動										

60,110 円

日付	出発駅	交通手段	片道 ／ 往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
7 年 8 月 27 日						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
	リゾートリニティ札幌				0112429269		15,720 円			
備考欄										

小計 15,720 円

日付	出発駅	交通手段	片道／往復	到着駅	距離		交通費			
							運賃		特急料金 等	
7 年 8 月 28 日	札幌	JR	片道	新千歳空港	46.6	km	1,230	円		円
	新千歳空港	飛行機	片道	中部国際空港	988	km	43,210	円		円
						km		円		円
						km		円		円
						km		円		円
日	宿泊先名称				TEL		宿泊料金			
							円			
備考欄										
※中部国際空港から自家用車で移動										

小計 44,440 円

バック等による割引など

43,970 円

鉄道代合計：2,410円

宿泊費 合計

交通費 合計

31,440 円

88,830 円

申請額合計
(宿泊費+交通費-割引代)

76,300 円